資料

平成30年度　上峰町立上峰小学校　学校評価結果

1　学校教育目標	2　本年度の重点目標
心 と 智恵 と 技 を とぐ 上峰っ子の育成	①　豊かな心の育成 ②　確かな学力の定着 ③　健やかな体の育成

達成度　A：ほぼ達成できた
B：概ね達成できた
C：やや不十分である
D：不十分である

重点目標を具体的に評価するための項目や指標を盛り込む

3　目標・評価

①豊かな心の育成

領域	評価項目	評価の観点 （具体的評価項目）	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 （左記の理由）	具体的な改善策・向上策
学校運営	○開かれた学校	＊開かれた学校づくりの推進	・参観者数を昨年度より増やす。 ・学校だより等で学校の様子を知らせる。 ・地域の方々との連携や協力を促す。	保護者や地域の方々に、学校だよりや各学年・学級だより等で来校を促すと同時に、携帯電話の「マチコミ」による情報発信、日程をホームページや文書で早目に連絡する。また、地域の人材活用については、目的を踏まえて、常に見直しを図っていく。学校だよりやHPでも紹介する。	A	・授業参観や学校行事への参観は多いが、保護者アンケート「授業参観・学級懇談・PTA活動に参加している。」では81.8%であり、懇談会出席率が低い。 ・保護者アンケート「学校・学年便り、ホームページで学校の様子を伝えている。」では91．9%の高評価をえることができた。 ・地域の人材活用については、年間を見通した計画を立てて実施しているので、定着している。	・通信やマチコミでの情報発信を継続するとともにホームページでのお知らせコーナーの充実を図る。さらに具体的に保護者の学校行事への出席について統計を取り、時期や内容を工夫していく。 ・地域の人材活用については、目的を踏まえて、常に見直しを図っていく。
教育活動	●いじめの問題への対応	＊人権教育の充実	・生活アンケート「人のいやがることを言ったりしない」児童を90%以上にする。 ・生活アンケート「友だちには、「さん」や「君」をつける」児童を90%以上にする。	生活アンケートを月に1回実施し、実態を把握して指導する。 保護者へのアンケートを年に2回実施し、実態把握をして改善に生かす。 「よい子」（連絡帳）を使って、常時、保護者と連携する。	B	・今年度は、保護者からの電話や連絡帳での連絡で判明したいじめ事案への対応を行った。担任がすばやく管理職に相談し、組織的に対応できた点はよかった。 ・生活アンケートの回数は生徒指導部で検討した結果、2か月に1回に変更した。	・具体的目標は、「いじめ問題についての研修会を年に1回以上行う。」等を設定し、職員のいじめ問題対応についての意識を高められるようにする。 ・アンケートに書かれた事案についての対応は、各クラスで迅速に対応することができていたので良かったが、より正確な実態を把握するために生活アンケートは月に1回実施すべきである。 ・保護者へのアンケートは県のアンケートの時に1回実施する。
	○生徒指導・教育相談の充実	＊生活指導・教育相談の充実 日常の観察指導を徹底すると共に、いじめの実態調査や子どもとの相談活動、家庭との連携・協力で発生の防止に努める。	・　①あいさつ指導②清掃指導③廊下歩行指導④はきもの指導⑤言葉づかい指導の5点に重点をおき、反復・継続的に指導することで生活・行動の規範意識を高め、落ち着いて学校生活を送ることができるようにする。 ・不登校や不登校傾向の児童数を減少させる。	毎月、生活朝会や学年朝会で指導を行う。緊急の場合は、校内放送でも指導を行う。職員が一人で抱え込むことが無いよう、チームで指導を行っていく。 スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーなどの関係機関と連携・協力する。	B	・①あいさつ指導と④はきもの指導については、一定の成果が見られた。。しかし、児童全員の意識を高めるまでには至っておらず、残りの3項目も含め、有効な改善策を考える必要がある。 ・登下校時、一列で右側を歩くことができていない班が目立ってきている。児童の意識を高めるための手立てが必要である。	・5つの指導項目については、生徒指導連絡会で問題点を共有し、全職員で場面を逃さず適切な声かけを行っていくようにし、がんばりを放送でも賞賛する。 ・3学期に始めた登校班長会を継続し、児童の登下校時のマナーを高めていく。 ・不登校傾向の児童は増える傾向にあり、引き続きスクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーなどの関係機関と連携・協力していく必要がある。
	●心の教育	＊人権・同和教育の充実 ＊特別活動等の充実 ＊道徳授業の充実	・人権・同和教育の推進を図り、どの子も楽しく過ごせる学級・学校づくりを行う。 ・計画的な集会活動や毎月の委員会活動を実施する。 ・道徳授業の工夫改善を図る。また、年1回以上ふれあい道徳を全学級で行う。	参観日にふれあい道徳授業を行い、保護者・地域の方に本校道徳教育の理解を求める。 人権教育をもとに子どもたちの豊かな人間関係を築き、どの子どもにとっても楽しい学級・学校づくりを行う。	A	今年度も計画通り、集会を実施することができた。人権集会の授業もふれあい道徳の授業も全学級で確実に実施し、取り組みが定着してきた。一方、友だちに対する態度がなかなか改善されない児童がいる。また、アンケートの[A」「B」の評価について教職員より保護者の数値がやや低い。	人権集会や人権週間の授業は計画通り実施することができたいる。しかし、年間を通して、繰り返し、思いやりやいじめについての学習を積み重ねていく必要がある。そこで機会があるごとに資料等を提示し、取り組みやすい環境を作る。 交友関係に関する指導をしたときはこまめに保護者と連携し、学校の対応を知らせるとともに家庭と連携して指導していく必要がある。

②確かな学力の定着

領域	評価項目	評価の観点 （具体的評価項目）	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 （左記の理由）	具体的な改善策・向上策
教育活動	●学力の向上	＊学び方のきまりの徹底 ＊確かな学力の育成 ＊基礎学力の徹底指導 ＊校内研究の充実・推進 ＊読書指導の充実	・学習のきまりの達成率は80%をめざす。 ・CRTテストや学習状況調査の結果を分析し、指導に活用する。 ・12月学習状況調査で各教科の「十分達成」に対する割合を0.1ポイント向上させることをめざす。 ・年間の読書量について一人平均80冊以上をめざし、学年で目標を決めて奨励する。	学習のきまりが守れているか学期に1回児童や教師で振り返る。 学習の基礎・基本を日々の授業で徹底する。 研究授業だけでなく、児童にめあてを理解させ、分かりやすい授業をめざし、日常の授業改善を図る。 学年に応じた、読書の量と質が向上するように推進する。	C	・学習のきまり8項目中5項目は80%を達成できた。「机と体は拳1つ分」が課題である。 ・CRTテストや学習状況調査の結果を分析し、取組を話し合う研修を2回行った。取組を具体化し確実に実践することが課題である。 ・6年生はポイントの向上が見られたが、5年生は下がった。4教科共目標は達成できなかった。 ・年間読書遼は全校平均68冊だった。（1・3年生は平均80冊）	・年度初めに学習の決まりができるように徹底して指導する。 ・年度初めに前年度12月調査結果から、基礎基本の定着や活用力向上をめざし、確実に学力向上につながる取組について話し合う。校内研究とからめて取り組める内容を具体化し、全職員で実践する。 ・低・高学年の貸出目標冊数を決め、図書室に本を借りに行く時間を確保する。家庭学習での読書や朝読等に取り組ませる。家庭とも連携し、読書を奨励する。
	○教職員の資質向上	＊校内研究（算数科）の充実 ＊職員研修の充実 ＊参画意識の育成	・研究授業の充実を図る。（研究会：6回） ・職員研修を年5回以上開催する。 ・部会の充実を図る。	毎回講師を招聘し、研究会の充実を図る。 職員の経験や特技を生かした研修を行い、職員相互の情報交換の機会を増やす。	A	・全校授業研究会や学年部会を充実させ、お互いの授業を参観する機会を持つことによって研修が深まった。 ・中学校との合同研修会を実施し、学校課題である特別支援教育への理解を深めることができた。	・学力向上に重点を置いた取り組みとなるように校内研究の充実と教職員の資質向上を図る。 ・服務、安全に関する研修、学習指導要領改訂に伴う外国語、道徳、プログラミング教育等の研修を夏季休業中に計画し、研修の充実を図る。
	○特別支援教育の充実	教員の専門性と意識の向上	・特別支援教育に関する研修会を行い、専門性が向上したと感じる教員の割合を80%以上にする。 ・ケース会議などを充実させ、支援が必要な児童に対してチームで対応できたと答えられる教員を80%以上にする。	・年間3回以上研修会を行うことにより、専門的知識を深めることで、それぞれの生徒に対して適切な対応ができるようにする。 ・毎月必要に応じてケース会議を開き、支援が必要な児童の情報を共有し、すべての教員が対応できる環境を整える。	B	・SCと佐賀県教育センターから指導主事を講師に招き、全員参加の研修会を2回行った。一般的な知識の向上は図れたが、もう少し具体的な対応について研修が必要である。 ・専門性が向上したと感じる教員の割合は70%、支援が必要な児童に対してチームで対応できたと答えた教員は93%であった。必要に応じてSCとのカウンセリングやSSWも含めたケース会議を開くことができた。決定した支援については関係者で共有して支援を行うことができた。	・具体的な対応について考える事例研修会も実施する。特別支援学級担任と交流学級担任で対応を話し合う機会を設ける。 ・特別支援教育コーディネーターが核となり、関係する外部機関・関係者を確認し、SCやSSWとの連絡調整を行い、ケース会議を設定する。共通理解してチーム対応できるようにする。 ・特別支援教育に関する指導力を組織としてあげ、若手職員に指導のノウハウを繋いでいく。

③健やかな体の育成

領域	評価項目	評価の観点 （具体的評価項目）	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 （左記の理由）	具体的な改善策・向上策
教育活動	●健康・体つくり	＊基本的生活習慣の確立	・保護者アンケート「わが家では、よい生活習慣の定着、食事の工夫、健康、疾病治療に努めている」回答を90%以上にする。	栄養教諭とのTTで栄養についての授業を行い、食への関心を高め、食マナーや健康への意識化を図る。 学級活動として歯みがき指導を授業に組み入れ、児童や保護者にさらに歯の健康に気を付けるように意識付けをさせる。	A	・栄養教諭との授業を通して、学年に応じた食や健康についての知識を深めることができた。アンケート結果でも90%以上ができていると回答しており、食マナーについては、よい習慣が確立できている。 ・歯みがき指導は、全クラスに歯科衛生士からの指導を実施できた。1･5年生は、授業参観時に行うことにより、保護者への啓蒙にもつながった。	食についての関心を高め、食マナーについてもよい習慣をつけられるよう、今後も栄養教諭との連携を密にして、継続して指導していきたい。 歯科衛生士との情報交換を十分に行い、児童の実態にあった指導を継続する。

本年度の重点目標に含まれない共通評価項目

領域	評価項目	評価の観点 （具体的評価項目）	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 （左記の理由）	具体的な改善策
学校運営	●業務改善・教職員の働き方改革の推進	校務等の効率化の促進	・各分掌間の連携及び情報共有を図り、効率的な業務への取組を推進するとともに、教職員の時間外勤務について1か月当たり平均を23時間以下にする。	・校務サーバー上で各分掌が情報共有を行いやすいように、フォルダ構成を工夫する。 ・特定の教職員に業務が集中しないようにマネジメントを行う。 ・月曜日から木曜日は、19時までに学校を施錠、毎週金曜日を定時退勤日とし、事前周知を行う。	A	・年度初めに共有フォルダの整理を行ったが、校務運営を考えると整理は年度終わりに行うべきだった。 ・校務の軽重はあるもののペアやチームで円滑な運営ができるように声かけを行った。 ・時間外勤務年平均21時間、目標値を達成できた。金曜日の定時退勤については行事との兼ね合いから守れない職員もいたため、更なる業務内容の改善が必要。	・年度末に共有フォルダ内の整理期間を設け、次年度の準備を前年度に行う。 ・校務を大きく3つのグループに分け、チームで運営ができるように組織を変える。 ・定例会議の縮減、内容の見直し等で子どもと向き合う時間を確保し、業務改善を図る。

4　本年度のまとめ　・　次年度の取組

今年度の目標については、おおむね達成することができたが、「学力向上」については課題が残る。今後は「校内研究」と「学力向上」を結びつけ、昨年度に引き続き「算数科」の研究に取り組み、全職員が研究授業を行い、地区の教科等研究会の中で校外にも授業を公開するなど、全職員で取り組んでいきたい。
さらに、「特別支援教育」にも力を注ぎ、児童がいきいきと学校生活を送り、積極的に学習に臨むことができるように、ニニバーサルデザインの視点による環境の整備や学習指導と生徒指導両面の指導力向上に取り組んでいきたい。また、地域や保護者との連携についても検証を行い、「地域に開かれた学校」、「安心・安全な学校」を目指して、全職員で取り組んでいきたい。

●は共通評価項目、○は独自評価項目